【事業名】鳥ノ巣半島生物多様性保全推進事業
（和歌山県田辺市）　【団体名】鳥ノ巣半島生物多様性保全推進協議会

令和２年度　生物多様性保全推進支援事業
実績報告書別紙10－６

事業の背景・目的

・鳥ノ巣半島は吉野熊野国立公園内に位置し、南方熊楠ゆかりの神島を前面に臨み、田辺湾の干潟や大小ため池が存在する、豊かな自然環境が維持されている地域である。しかし、そのため池にここ数年来、外来生物のアフリカツメガエルが大繁殖し、在来生物を脅かし生物多様性損失の危機となっている。
・ 地元の中高等学校生物部や自然保護団体が駆除活動に精力的に取り組んでいるが、根絶には至っていない。

鳥ノ巣半島と神島

事業の内容

・鳥ノ巣半島内のため池32箇所において、県民及び地元中高等学校や自然保護団体の参画のもと、アフリカツメガエル等外来生物を防除することで、鳥ノ巣半島の生物多様性を保全し、豊かな自然環境を次世代に継承していく。

【令和元～２年度】

事業①　アフリカツメガエル等外来生物の防除活動の実施

（1）県民ボランティアの組織化
・県民による外来生物防除を担うチームを組織化。

（2）モニタリング調査・計画策定
・専門家による調査を行い、防除計画を策定。

（3）池干し・防除活動を行い絶滅ラインを確保
・ため池の水抜きを行い、在来生物を保護し、アフリカツメガエル等外来生物を防除。

アフリカツメガエル

ため池

ポンプで水抜き

防除網を設置

（4）評価委員会の開催
・有識者による評価委員会を開催し、活動のフィードバック。

得られた成果

・２年間で、ため池26か所で防除作業を実施し、７か所で根絶した。
・しかし、防除実施後にアフリカツメガエルの残存個体が見られることがあった。環境DNA調査で周辺水路でも確認された。
・今後、半島内のアフリカツメガエルの生態（夏眠生態や移動能力等）をより詳細に調査研究し、防除方法へと反映させていく。